

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5238246号
(P5238246)

(45) 発行日 平成25年7月17日(2013.7.17)

(24) 登録日 平成25年4月5日(2013.4.5)

(51) Int. Cl.		F I		
B 6 5 D	83/76	(2006.01)	B 6 5 D	83/00 K
B 6 5 D	47/34	(2006.01)	B 6 5 D	47/34 A
B 6 5 D	81/32	(2006.01)	B 6 5 D	81/32 U
B 0 5 B	11/00	(2006.01)	B 0 5 B	11/00 1 O 2 A
			B 0 5 B	11/00 1 O 2 D

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2007-333697 (P2007-333697)	(73) 特許権者	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1 〇号
(22) 出願日	平成19年12月26日(2007.12.26)	(73) 特許権者	000006909 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号
(65) 公開番号	特開2009-154899 (P2009-154899A)	(74) 代理人	100076532 弁理士 羽鳥 修
(43) 公開日	平成21年7月16日(2009.7.16)	(74) 代理人	100101292 弁理士 松嶋 善之
審査請求日	平成22年7月12日(2010.7.12)	(74) 代理人	100107205 弁理士 前田 秀一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ポンプ付き容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

可撓性を有する材料からなり、口部とは反対側の一端部が閉塞された筒状の容器本体と、該容器本体の口部に装着されるポンプ本体及びノズル部を有するポンプ装置と、該ポンプ装置を作動させるポンピング手段を備えるホルダーと、該ホルダーの下端の周縁部分に上端開口の周縁部分を係止することにより、前記容器本体の収容部を覆って前記ホルダーに装着される有底筒状のカバー体とからなるポンプ付き容器であって、

前記ホルダーの前記下端の周縁部分は、楕円又は長円の開口形状を有しており、

前記カバー体は、底部が楕円又は長円の平面形状を備えると共に前記上端開口が円形の開口形状を備えるように成形されており、前記上端開口を、フリーな状態でこれの周縁部分を押圧することにより楕円又は長円の開口形状となるように変形させて、変形させた前記上端開口の周縁部分が前記ホルダーの楕円又は長円の開口形状を有する前記下端の周縁部分に係止されていることによつて、前記上端開口の周縁部分が全周に亘って外側から拘束されているポンプ付き容器。

【請求項2】

前記ホルダーは、一対の前記容器本体を並設した状態で保持すると共に、前記ポンピング手段の操作によつて各容器本体から内容物を同時に吐出させる2連式のホルダーであり、該2連式のホルダーに一対の前記容器本体が並設して取り付けられている請求項1記載のポンプ付き容器。

【請求項3】

10

20

前記ホルダーの外側は、保持部に保持された前記容器本体の口部を被覆する被覆部を形成しており、該被覆部は、その内側に前記ポンプ本体が位置するように構成されており、一方の前記容器本体は、口部に装着された前記ポンプ装置の前記ポンプ本体が前記被覆部の内側に位置しており、他方の前記容器本体は、前記ポンプ本体が前記被覆部の内側だけでなく、外側にも位置している請求項 2 記載のポンプ付き容器。

【請求項 4】

前記ポンピング手段は、前記ホルダーに回転可能に取り付けられると共に、操作部が前記容器本体の側方に延設しており、該操作部を前記容器本体に近づけるように操作することでポンプ装置が作動して、前記ノズル部から内容物を吐出するようになっている請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項記載のポンプ付き容器。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ポンプ付き容器に関し、特に可撓性を有する材料からなる一端部が閉塞された筒状の容器本体と、この容器本体の口部に装着されるポンプ装置とを含むポンプ付き容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、容器本体に收容された液体などの内容物を容器本体からスムーズに取り出すことができるように、容器本体の口部にポンプ装置を取り付けたポンプ付き容器が種々用いられている。また、可撓性を有する材料からなり、一端部が閉塞された筒状の容器であるいわゆるチューブ容器を容器本体として、これにポンプ機能を有するディスペンサーを取り付けて内容物を吐出させるようにした容器も提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

20

【特許文献 1】特開平 8 - 11905 号公報

【特許文献 2】特開 2007 - 137466 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

一方、チューブ容器に收容される内容物は、一般に粘度の高いものが多く、内容物の粘度が高い場合には、ポンプを作動させるための操作に相当の力を要することになる。このようなことから、本発明者らは、例えばこの原理を利用して大きな操作力を容易且つ効率良く得られるようにした、レバーなどによるポンピング手段を提案している（例えば、特許文献 2 参照）。

30

【0004】

これらのポンプ付き容器では、レバーなどのでこの原理を利用したポンピング手段による操作によって、大きな操作力をポンプ装置に容易且つ効率良く伝えることができる一方で、大きな操作力の反力を得るために、例えば内容物を收容したチューブ容器を大きな力で把持する必要を生じることになる。したがって、このような大きな把持力によって、可撓性を有する材料からなるチューブ容器としての容器本体は変形しやすくなり、外観を損うと共に、把持し難くなって安定したポンピング操作を円滑に行うことが困難になる恐れがある。このようなことから、可撓性を有する材料からなる容器本体の変形を防止するための新たな技術の開発が望まれている。

40

【0005】

本発明は、容器を把持してポンピング操作を行う際の把持力による容器本体の変形を回避して、安定したポンピング操作を円滑に行うことができると共に、外観が損われないようにすることのできる、可撓性を有する材料からなる容器本体を有するポンプ付き容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

50

本発明は、可撓性を有する材料からなり、口部とは反対側の一端部が閉塞された筒状の容器本体と、該容器本体の口部に装着されるポンプ本体及びノズル部を有するポンプ装置と、好ましくは該ポンプ装置を覆って前記容器本体に取り付けられ、該ポンプ装置を作動させるポンピング手段を備えるホルダーと、該ホルダーの例えば下端開口の周縁部分に上端開口の周縁部分を係止することにより、前記容器本体の収容部を覆って前記ホルダーに装着される有底筒状のカバー体とからなるポンプ付き容器であって、前記カバー体は、底部が楕円又は長円の平面形状を備えると共に前記上端開口が円形の開口形状を備えるように成形されており、前記上端開口を楕円又は長円の開口形状となるように変形させて、前記上端開口の周縁部分が前記ホルダーの楕円又は長円の開口形状を有する前記下端の周縁部分に係止されているポンプ付き容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

10

【発明の効果】**【0007】**

本発明の可撓性を有する材料からなる容器本体を有するポンプ付き容器によれば、容器を把持してポンピング操作を行う際の把持力による容器本体の変形を回避して、安定したポンピング操作を円滑に行うことができると共に、外観が損われないようにすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】**【0008】**

以下に、本発明のポンプ付き容器について、その好ましい一実施形態を図面を参照しながら説明する。図1～図4に示す本実施形態のポンプ付き容器10は、例えばチューブ状の容器本体11を一对備えた2連式吐出容器であって(図2参照)、内容物として例えば2剤式染毛剤のような2種類の剤を、一回のポンピング操作によって各々容器本体11から同時に取り出すと共に、これらの剤を混合した状態で、ノズル部14の吐出口14aから吐出させることができるようになっている。

20

【0009】

本実施形態のポンプ付き容器10では、一对の容器本体11を並設した状態で保持するホルダー5に回動可能に取り付けられたレバー6をポンピング手段として、容器10の上部を把持しつつポンピング操作を行うことになるが、ポンピング操作を行う際の把持力によって可撓性を有する材料からなる容器本体11が変形するのを防止し、安定したポンピング操作を円滑に行うことができるようにすると共に、容器本体11の変形によって外観が損われないようにする機能を備えている。

30

【0010】

そして、本実施形態のポンプ付き容器10は、可撓性を有する材料からなり、口部11bとは反対側の一端部11aが閉塞された筒状の容器本体11と、容器本体11の口部11bに装着されるポンプ本体15及びノズル部14を有するポンプ装置13と、ポンプ装置13を覆って容器本体11に取り付けられ、ポンプ装置13を作動させるポンピング手段としてのレバー6を備えるホルダー5と、ホルダー5の下端開口5aの周縁部分に上端開口30aの周縁部分を係止することにより、容器本体11の収容部11dを覆ってホルダー5に装着される有底筒状のカバー体30とによって構成される。

40

【0011】

また、本実施形態では、ポンピング手段としてのレバー6は、ホルダー5に回動可能に取り付けられると共に、操作部6cが容器本体11の側方に延設しており、操作部6cを容器本体11に近づけるように操作することでポンプ装置13が作動して、ノズル部14の吐出口14aから内容物を吐出するようになっている。

【0012】

さらに、本実施形態では、ホルダー5は、一对の容器本体11を並設した状態で保持すると共に、レバー6の操作によって各容器本体11から内容物を同時に吐出させる2連式のホルダーであり、この2連式のホルダー5に一对の容器本体11が並設して取り付けられている。

50

【0013】

本実施形態では、ポンプ付き容器10を構成する容器本体11は、可撓性を有する材料からなり、図2に示すように、口部11bとは反対側の一端部11aが閉塞されたチューブ状の筒状体である。容器本体11は、例えば内径が10～50mm程度、高さ（長さ）が70～200mm程度の円筒状に形成される。

【0014】

容器本体11には、例えば、染毛剤、練り歯磨き等の2剤式の内容物（図示せず）が収容されている。本実施形態における内容物は、2剤式の染毛剤の第1剤及び第2剤である。容器本体11に収容されている内容物は、ポンプ装置13（図5参照）のポンプ作用によって吸引され、ノズル部14を介して吐出口14aから吐出される。

10

【0015】

内容物が酸素により劣化するもの（例えば染毛剤）である場合には、该内容物の劣化を防止するために、容器本体11は、酸素バリア性を有するシート材料からなることが好ましい。そのようなシート材料としては、例えばアルミラミネート樹脂が挙げられる。

容器本体11の一端部11aは、例えば、次のように閉蓋される。まず、口部11bにポンプ装置13を固定する。ポンプ付チューブ容器を形成する際における常法に従って、一端部11aから容器本体11に内容物を充填収容する。その後、一端部11aを平坦状に押し潰しつつ、公知のヒートシール手段を用いて、アルミラミネート樹脂シートにおける最内層のシーラント層同士をヒートシールする。

【0016】

容器本体11の口部11bに固定されるポンプ装置13は、一般にポリオレフィン樹脂等の合成樹脂からなり、図5及び図6に示すように、ポンプ本体15及びノズル部14から構成される。

20

ポンプ本体15は、その内部に、計量室19を含む公知のポンプ機構を備える。また、ポンプ本体15は、容器本体11の口部11bの内周面11cと密着する外周面部分16を有しており、外周面部分16を内周面11cに密着させて容器本体11で覆った状態で、口部11bに固定されるようになっている。

【0017】

ポンプ本体15は、円筒スリーブ形状の外周面部分16によって、その外殻部が構成されている。外周面部分16は、容器本体11の内径と同じか、僅かに大きい外径を有しており、そのため、外周面部分16の外周面は、ポンプ本体15が容器本体11の口部11bに挿入装着された際に、口部11bの内周面11cと強固に密着する。

30

【0018】

ポンプ本体15の外周面部分16の外周面は、ヒートシール性を有するポリオレフィン樹脂等からなる。そして、容器本体11の口部11bにポンプ本体15を装着した後に、公知のヒートシール手段を用いて容器本体11の外側からヒートシールを施すことにより、ポンプ本体15の外周面部分16の外周面と容器本体11の口部11bの内周面11cとを、気密な状態で強固に密着接合することが可能になる。

【0019】

ポンプ本体15は、シリンダー20、ピストン21、吸入弁22、吐出弁23、ステム26、ステム押さえ27、スプリング28、スプリング押さえ29等を備えている。シリンダー20は、円筒状で、その下端部に吸入弁22が設けられている。ピストン21は、シリンダー20の内面を密着摺動するもので、その下端部に吐出弁23が設けられている。シリンダー20の内面及び吸入弁22並びにピストン21の吐出弁23によって閉鎖される空間から、計量室19が形成される。

40

【0020】

ステム26は、ピストン21の上部に連結された筒状の部材である。ステム押さえ27は、ステム26のつば部を上方から押さえ付け、ステム26の上方への移動を阻害している。スプリング押さえ29は、ステム26の上部に連結された筒状の部材である。

【0021】

50

ステム押さえ 27 とスプリング押さえ 29 との間には、スプリング 28 が介在している。従って、スプリング押さえ 29 は、スプリング 28 の弾性力によって、ステム押さえ 27 から離間する方向に常時、付勢されている。ただし、スプリング押さえ 29 の上部に連結されたノズル部 14 が、後述するように、ポンピング手段であるレバー 6 の押圧部 64 によって上方への移動を拘束されているので、スプリング押さえ 29 が、ステム 26 から分離することはない。

【 0022 】

ノズル部 14 は、ポンプ本体 15 から上方に突出して設けられており、その下部に連結されたスプリング押さえ 29 及びステム 26 を介してピストン 21 に連結されている。ノズル部 14 の流路はクランク状（略直角に屈曲し、次に反対向きに略直角に屈曲した形状）である。

10

【 0023 】

このように構成されたポンプ装置 13 によれば、ノズル部 14 の押圧操作を繰り返すことにより（本実施形態においては、後述するように、ポンピング手段であるレバー 6 によるポンピング操作により、ノズル部 14 の押圧操作が行われる）、ピストン 21 をシリンダー 20 に対して密着摺動させ、そのポンプ作用によって、容器本体 11 から吸入弁 22 を介して内容物を計量室 19 に吸引することができる。そして、計量室 19 に吸引された内容物を、吐出弁 23、ステム 26、スプリング押さえ 29 等を介して、ノズル部 14 の吐出口 14a から必要量吐出することができる。

【 0024 】

20

本実施形態のポンプ付き容器 10 においては、前述した構成を有するポンプ装置 13 が、並設された 2 本の容器本体 11 にそれぞれ設けられており、並設された 2 本の容器本体 11、11 の口部 11b、11b に固定されたポンプ装置 13、13 のクランク状の各ノズル部 14、14 は、その吐出口 14a、14a 近傍において一体化しており、吐出口 14a、14a を隣接させている。そのため、並設された 2 本の容器本体 11、11 の収容部 11d（図 2 参照）のそれぞれに充填されている第 1 剤及び第 2 剤は、隣接する吐出口 14a、14a から吐出されることになるため、第 1 剤及び第 2 剤は、実質的に同じ位置に吐出されることになる。2 個のノズル部 14 の流路 14b は、その断面積及びその長さが実質的に同じになっている。

【 0025 】

30

ポンプ装置 13 は、前述したように、ポリオレフィン樹脂等の合成樹脂からなるが、このような材料から形成されたポンプ装置 13 は、それ自体が酸素バリア性を有していない。而して、本実施形態のポンプ装置 13 においては、計量室 19 に、容器本体 11 の内容物に対して不活性なガスが充填されている。ここでいう「不活性」とは、内容物に対する相対的なものである。具体的には、本実施形態における染毛剤のような、酸素に対して劣化する内容物に対して不活性なガスとしては、例えば窒素ガス、ヘリウムガスが挙げられる。

【 0026 】

次にホルダ 5 について説明する。ホルダ 5 は、ポンプ装置 13、13 を固定した 2 本の容器本体 11、11 を並設した状態で保持する部材である。ホルダ 5 は、容器本体 11 を保持可能な保持部 51、51 を 2 個並設しており、本実施形態における保持部 51 は、容器本体 11 の口部 11b を、直接的に又は他の部材を介して間接的に保持可能になっている。

40

ホルダ 5 は、保持部 51 に、ポンプ装置 13、13 を固定した容器本体 11 を着脱自在に構成されている。容器本体 11 を着脱自在な構成については特に制限はなく、例えば、凸部を凹部に嵌め込むことによる嵌着、雄ネジと雌ネジとをネジ込むことによる螺着が挙げられる。本実施形態においては、嵌着が用いられている。

【 0027 】

ホルダ 5 の外面は、保持部 51 に保持された容器本体 11 の口部 11b を被覆する被覆部 52 を形成している。被覆部 52 は、その内側にポンプ本体 15 が位置するように構成

50

されていることが好ましい。本実施形態においては、一方の容器本体 11 (図 2 の右側に示す容器本体 11) は、口部 11b に装着されたポンプ装置 13 のポンプ本体 15 が被覆部 52 の内側に位置しているが、他方の容器本体 11 (図 2 の左側に示す容器本体 11) は、そのポンプ本体 15 が被覆部 52 の内側だけでなく、外側にも位置している。

【 0028 】

次にポンピング手段について説明する。ポンピング手段は、ポンプ装置 13 のポンピング動作を行うものである。本発明において「ポンピング動作」とは、ポンプ装置 13 にポンプ作用を生じさせる動作のことであり、使用者の手動の操作により行われる。本実施形態においては、ポンピング手段としてレバー 6 を備えており、レバー 6 の押圧操作により、並設された 2 本の容器本体 11, 11 に装着された各ポンプ装置 13, 13 のポンピング動作を一つの操作で行うことができるように構成されている。また、レバー 6 は、例えばホルダ 5 に設けられた回転軸 61 に軸支されて、ホルダ 5 に対して回転可能に取り付けられている。

10

【 0029 】

本実施形態においては、ポンピング手段であるレバー 6 は、略直角に屈曲した形状を有しており、その基端部 6A が回転軸 61 を回転支点として、ホルダ 5 の上部の端部に軸支されている。レバー 6 の基端部 6A から横方向に延びる中間部分 6B の上部には、貫通孔 62 が設けられている。中間部分 6B に貫通孔 62 が設けられていることにより、2 個のノズル部 14 が一体化した吐出口 14a 近傍の部分は、レバー 6 の中間部分 6B を貫通して、該中間部分 6B の上部から突出する。

20

【 0030 】

レバー 6 の中間部分 6B には、貫通孔 62 を包囲するようにノズル部 14 に向けて突出する押圧部 64 が設けられている。押圧部 64 は、ノズル部 14 における横方向に延びる中間部分 14c に当接している。

【 0031 】

レバー 6 の操作部 6C は、把持しやすい形状を有しており、中間部分 6B から略直角下方に屈曲して、容器本体 11 の側方に延設している。従って、ホルダ 5 や後述するカバー体 30 によって周囲を覆われた容器本体 11 を、掌に包み込むようにして操作部 6C の反対側から把持し、レバー 6 の操作部 6C に指を掛けて、回転軸 61 を回転支点として操作部 6C を容器本体 11 に近づけるようにレバー 6 を操作すれば、押圧部 64 を介して、並列された 2 個のポンプ装置 13 における各ノズル部 14 の双方が、下方に向けて (つまり計量室 19 に向けて) 押圧される。これによって、ピストン 21 がシリンダー 20 の内部を上下動することによりポンプ装置 13 が作動して、ノズル部 14 の吐出口 14a から内容物を容易に吐出させることが可能になる。

30

【 0032 】

そして、本実施形態のポンプ付き容器 10 では、図 1、図 3、及び図 4 に示すように、容器本体 11 の収容部 11d を覆う有底筒状のカバー体 30 が、ホルダ 5 の下端開口 5a の周縁部分に上端開口 30a の周縁部分を係止して、ホルダ 5 に着脱可能に装着されている。

【 0033 】

カバー体 30 は、例えば PE、PP、PET 等の合成樹脂材料を用いて、好ましくはブロー成形によって成形される。カバー体 30 は、底部 31 と筒部 32 とが一体となった有底筒状に形成され、上端面が上端開口 30a として開口する。また、カバー体 30 は、筒部 32 における合成樹脂材料の厚さが例えば 500 ~ 1500 μm となるように成形されていて、適度な可撓性と保形剛性を備えている。これによって、例えば上端開口 30a がフリーな状態でこの周縁部分を側方から手や指で押圧することにより、当該上端開口 30a の形状を容易に変形することができるようになっている (図 4 参照)。また例えば上端開口 30a の周縁部分が全周に亘って外側から拘束されていて、当該上端開口 30a を径方向に外側に広げることができない状態では、当該上端開口 30a を手や指で圧縮変形させる荷重に対して効果的に抵抗して、多少撓みはするものの、大きな変形を生じさせ

40

50

ることなくその開口形状を強固に保持することができるようになっている（図1参照）。

【0034】

ここで、本実施形態では、カバー体30の上端開口30aの周縁部分の外側には、凹凸溝33等を適宜設けておき、この凹凸溝33をホルダー5の下端開口5aの周縁部分の内側に設けた被係止凹凸部（図示せず。）に着脱可能に係止させて、容器本体11の収容部11dを覆った状態で、カバー体30をホルダー5に安定した状態で装着しておくことが可能になる。また、カバー体30の上端開口30aの周縁部分の外側に、位置決め凹凸部34を適宜設けておき、この位置決め凹凸部34をホルダー5の下端開口5aの周縁部分の内側に設けた位置決め凹凸部（図示せず。）に着脱可能に係止させて、使用中におけるカバー体30のホルダー5に対する回転移動を防止できるようになっている。さらに、例えばカバー体30の筒部32の側部にスリットを設けてホルダー5に位置決めすることにより、カバー体30の回転によってカバー体30がセット位置からずれないようにしたり、カバー体30の筒部32に上端開口30aを押しつぶす方向を明示したマーキングを施すことにより、カバー体30が所望の形状及び方向にスムーズに変形されるように誘導することもできる。

10

【0035】

また、本実施形態では、カバー体30は、底部31が長円の平面形状を備えると共に上端開口30aが円形の開口形状を備えるように成形されている。上端開口30を外側から挟み込むようにして押しつぶすことにより長円の開口形状となるように変形させて、上端開口30aの周縁部分を、ホルダー5の長円の開口形状を有する下端開口5aの周縁部分に係止することにより、容器本体11と、ポンプ装置13と、ホルダー5と、カバー体30とが一体となった、本実施形態の2連式吐出式のポンプ付き容器10が形成されることになる。

20

【0036】

ここで、本実施形態では、ホルダー5は、ポンプ装置13、13を装着固定した2本の容器本体11、11を並設した状態で一对の保持部51、51に取り付けて保持するようになっている。したがって、その被覆部52による下端開口5aは、下方から見て、一对の円形断面を収容するのに適した長円の開口形状となっている。

【0037】

そして、上述の構成を有する本実施形態のポンプ付き容器10によれば、容器10を把持してポンピング操作を行う際の把持力による容器本体11の変形を回避して、安定したポンピング操作を円滑に行うことができると共に、外観が損われないようにすることができる。すなわち、可撓性を有する材料からなるチューブ状の容器本体11の収容部11dは、レバー6によるポンピング操作を行う際の大きな把持力を直接受けると変形しやすいものであるが、本実施形態によれば、容器本体11の収容部11dを覆ってホルダーに5装着される有底筒状のカバー体30を備えており、このカバー体30を把持することによって、レバー6による大きな操作力の反力を得ることになるため、把持しやすい。またカバー体30は、操作力の反力を安定した状態で支持して、容器本体11に収容された内容物が粘度の高いものである場合にも、変形することなくポンピング操作によってスムーズに内容物を吐出することができると共に、容器10の外観を損うことがない。

30

40

【0038】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えばホルダーが2連式のホルダーであり、2連式のホルダーに一对の容器本体が並設して取り付けられている必要は必ずしもなく、一本の容器本体のみがポンピング手段を備えるホルダーに取り付けられていても良い。また、ポンプ装置は、ポンプ本体の外周面を容器本体の口部の内周面に密着させて取り付けられている必要は必ずしもなく、ポンピング手段はホルダーに回動可能に取り付けられたレバーである必要は必ずしもない。さらに、カバー体は、容器本体を完全に覆う必要は必ずしもなく、窓等が開口形成されていても良い。さらにまた、カバー体の底部は完全に閉塞されたものである必要は必ずしもなく、その形状を強固に保持できるものであれば、開口部分を有するものであっても良い。

50

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】本発明の好ましい一実施形態に係るポンプ付き容器を示す斜視図である。

【図2】ホルダーに容器本体が取り付けられた、カバー体を装着する前の状態を示す正面図である。

【図3】成形時のカバー体の斜視図である。

【図4】カバー体をホルダーに装着する状況を説明する、容器本体を省略して示す分解斜視図である。

【図5】ホルダーに容器本体が内容物を吐出可能に取り付けられた状態を説明する要部拡大断面図である。

10

【図6】容器本体にポンプ装置が装着された状態を説明する要部拡大断面図である。

【符号の説明】

【0040】

- 5 ホルダー
- 5 a ホルダーの下端開口
- 6 レバー（ポンピング手段）
- 6 C レバーの操作部
- 1 0 ポンプ付容器
- 1 1 容器本体
- 1 1 a 容器本体の一端部
- 1 1 b 容器本体の口部
- 1 1 d 容器本体の収容部
- 1 3 ポンプ装置
- 1 4 ノズル部
- 1 5 ポンプ本体
- 3 0 カバー体
- 3 0 a カバー体の上端開口

20

フロントページの続き

- (72)発明者 吉川 順子
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内
- (72)発明者 千葉 哲也
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内
- (72)発明者 稲川 義則
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内
- (72)発明者 田崎 隆治
東京都江東区大島 3 - 2 - 6 株式会社吉野工業所内

審査官 佐野 健治

- (56)参考文献 特開 2 0 0 5 - 1 2 6 1 4 4 (J P , A)
実開昭 5 0 - 0 7 1 2 5 3 (J P , U)
特開平 0 4 - 3 4 9 9 5 4 (J P , A)
特開 2 0 0 2 - 0 0 2 7 5 7 (J P , A)
実開昭 6 1 - 1 3 2 2 5 1 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , DB名)

B 6 5 D 8 3 / 7 6
B 0 5 B 1 1 / 0 0
B 6 5 D 4 7 / 3 4
B 6 5 D 8 1 / 3 2